

生化学検査に関する大切なお知らせ

▶ ALP 測定結果が大きく変わります



この度、日本臨床化学会の定める日本の標準測定法が一部変更となることを受け、弊社もこれに対応し、検査方法を一部変更することを予定しております。
検査精度を維持するための変更となります旨、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

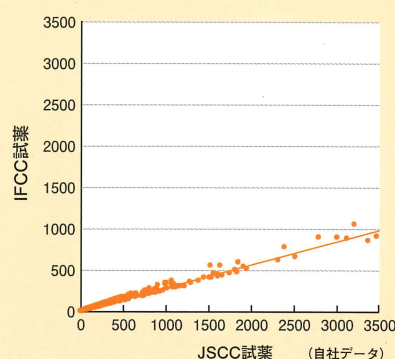
変更
内容

項目	単位	検査方法	
		現行	変更後
ALP	U/L	JSCC標準化対応法	IFCC標準化対応法
LDH	U/L	JSCC標準化対応法	IFCC標準化対応法

ALP			現 行	変更後
測定結果			—	現行の約1/3
参考基準範囲	1歳齢以上	イヌ	～254	～89
		ネコ	～165	～58
	1歳齢未満	イヌ	69～333	24～117
		ネコ	77～358	27～125
測定範囲（富士ドライケム）			50～3500	18～1225

※LDHは測定値に大きな違いはございません。

〈犬検体 ALP JSCC法とIFCC法の相関性〉



変更
時期

外注検査サービス：2021年2月1日(予定)

富士ドライケム：新製品「富士ドライケムスライド v-ALP」より

外注検査サービスでは2020年11月2日受付分より、ALP測定をご依頼いただいた場合の結果報告書に、変更後の測定結果を「ALP(新)」として併記いたします。

結果報告書例▶

項目	今回の成績	単位	参考基準範囲		
ALP	200	U/L	0	—	254
ALP(新)	70	U/L			



なぜ同じ項目で測定結果が大きく変わるのか

ALPをはじめとする酵素項目は、その活性を測定しています。酵素の活性は、pHや緩衝液(溶液)の組成など、様々な要因に影響を受けます。また、ALPにはいくつかのアイソザイムがありますが、この各アイソザイムの活性は緩衝液の種類によって大幅に変動することが知られています。今回の検査方法変更では、緩衝液の違いによりALPは測定値および参考基準範囲に大きく影響を受けることとなります。診療の際には十分にご注意下さいますようお願い申し上げます。

変更に伴う メリット

新たなALPの測定値は、海外論文等で用いられているデータと近い値になります。今後、ご施設の測定結果を海外の報告と比較しやすくなり、また海外のガイドラインを利用しやすくなります。

▶ 参考基準範囲を改訂いたします



院内ドライケムと外注検査サービスの参考基準範囲共用化を開始して間もなく2年となります。
この度、データ数を増やして参考基準範囲を見直し、一部項目を改訂することといたしました。
新参考基準範囲につきましては、12月頃発送予定のDMおよび2021年検査案内にてお知らせを予定しております。